

# **等々力緑地再編整備実施計画**

**平成23年3月**

**川 崎 市**

## 目 次

### 序 章 実施計画の策定にあたって

1 策定の趣旨	P 1
2 「整備方針」の概要	P 2
3 「基本構想」の概要	P 5
4 「基本計画」の概要	P 11

### 第1章 再編整備実施計画

1 対象区域	P 16
2 緑地全体の再整備の方向	P 17
3 主要施設の整備の方向と配置	P 27

### 第2章 整備手順・スケジュール

1 整備手順	P 32
2 整備スケジュール	P 35

### 第3章 実施計画の実現に向けて

1 事業実施にあたって	P 36
2 さらなる魅力づくりに向けて	P 37

### 参考資料

1 等々力緑地再編整備検討委員会設置要綱	P38
2 等々力緑地再編整備検討委員会の開催状況	P40
3 等々力緑地利用者等懇談会参加団体	P41
4 等々力緑地利用者等懇談会の開催状況	P42

## 序 章 実施計画の策定にあたって

### 1 策定の趣旨

等々力緑地は、緑と水のうるおいの空間を有し、良好な都市環境を形成するための重要な役割を担うとともに、多数の運動施設、文化施設、市民の憩いの場など多面的な機能を有する貴重な地域資源として、市民の方々に親しまれている総合公園です。

これまで、必要に応じて緑地内の整備等を進めてきていますが、陸上競技場や硬式野球場などの運動施設について老朽化などの課題が指摘されているほか、JR 横須賀線武蔵小杉駅の開業や大規模な都市型住宅の供給による人口の増加など、武蔵小杉駅周辺の大規模な再開発事業等も進む中、多くの市民に愛される総合公園として再編整備を進めることで、本市の広域拠点として、より一層の都市機能の強化や新たな玄関口にふさわしい都市景観の形成など、魅力を高めるまちづくりにつなげることが求められています。

こうした中、平成20年10月に「等々力緑地再編整備検討委員会（以下「検討委員会」。）」を組織し、広域的なまちづくりと緑地のあり方や、等々力緑地全体の再編整備について総合的に検討を進め、平成21年5月に再編整備に向けた基本的な考え方を「等々力緑地再編整備方針（以下「整備方針」。）」としてとりまとめ、平成22年2月には公園の基本的な考え方を「等々力緑地再編整備基本構想（以下「基本構想」。）」としてとりまとめました。その後、「整備方針」や「基本構想」を踏まえ、「検討委員会」において検討を進め、平成22年10月に等々力緑地再編整備の方向性を「等々力緑地再編整備基本計画（以下「基本計画」。）」としてとりまとめました。

「等々力緑地再編整備実施計画（以下「実施計画」。）」は、「基本計画」を踏まえ、緑地内の緑と水、安全・安心の場、動線の再整備、緑地へのアクセス改善など、緑地全体の再整備の方向とともに、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備の方向と配置、整備手順・スケジュールについてとりまとめたものです。

## 2 「整備方針」の概要

平成21年5月に策定した「整備方針」では、等々力緑地の現況、再編整備に向けた課題を整理し、「整備に向けた基本的な考え方」と「整備に向けた基本的な考え方を実現するための5つの方向性」をとりまとめました。

### (1) 等々力緑地の現況

- 等々力緑地は川崎市のほぼ中央に位置し、JR南武線・横須賀線、東急東横線武蔵小杉駅より約1kmにある市を代表する総合公園です。

○公園区域の大部分が多摩川の旧堤道路に囲まれた旧河川敷です。

○昭和16年に都市計画決定し、公園施設整備は昭和37年より行い、現在、都市計画決定区域 56.4ha、事業認可区域 42.9ha です。

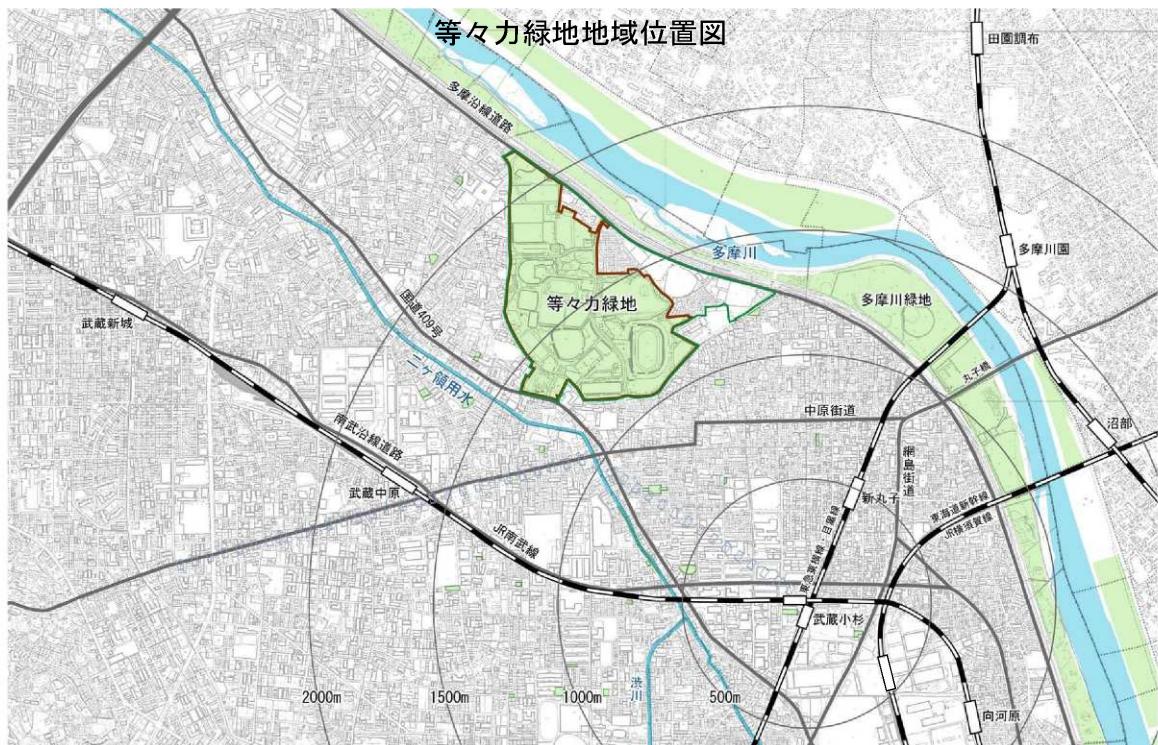
○緑地内は、市を代表する運動施設が充実しており、中でも陸上競技場はJリーグ・川崎フロンターレの本拠地として利用されるなど、スポーツ拠点となっています。

○日本庭園、四季園、ふるさとの森などの自然とふれあえる施設や、釣などのレクリエーションができる池や、文化施設である市民ミュージアム、イベントの開催なども可能な運動施設であるとどろきアリーナなどの施設が点在しています。

○陸上競技場、硬式野球場などの運動施設については、老朽化などが課題となっています。



### 等々力緑地の現況（航空写真）



## (2) 再編整備に向けた課題

等々力緑地再編整備に向けた主な課題を、「まちづくりにおける等々力緑地再編整備の課題」、「施設再編整備の課題」、「今後の事業化の課題と施設管理に向けた課題」の3つの視点から整理しました。

### ア まちづくりにおける等々力緑地再編整備の課題

- 緑地周辺との連携に関して、まちづくりの視点から次の6つの課題をまとめました。
- ①川崎市のスポーツ・文化の拠点として、3大公園（富士見公園、等々力緑地、生田緑地）の機能分担等を視野に入れた、多様な利用者に対応した魅力を高める施設機能の向上が求められる。
  - ②多摩川等との連続性を活かし、身近な自然とふれあうことができる緑と水のネットワークの形成が必要である。
  - ③小杉地区の都市活動拠点と連携することによって地域全体の魅力向上を図ることが求められる。
  - ④小杉地区のまちづくりや商店街を意識した緑地へのアクセスルートの設定とエントランスの整備が求められる。
  - ⑤地域の安全・安心な防災拠点として、新たな都市防災機能の向上を図る必要がある。
  - ⑥まちづくりと連携したバリアフリー化の推進が必要である。

### イ 施設再編整備の課題

- 緑地内の施設再編整備にあたって、次の9つの課題をまとめました。
- ①貴重な緑の核として、自然的環境の維持・保全を推進する必要がある。
  - ②市民の多様なニーズに応えるため、多機能な緑地機能の確保が求められる。
  - ③現状機能を踏まえ、適正で柔軟な施設配置、複合化が必要である。
  - ④スポーツ、文化・芸術等の多様な機能と連携する動線や交流のための空間の形成が必要である。
  - ⑤各種アクセスに応じたエントランス機能の向上、緑地内の動線確保、景観の形成が必要である。
  - ⑥スポーツなどを通して、多様な人々が「する」「観る」「支える」の視点で、交流可能な施設整備の推進を図る必要がある。
  - ⑦地域の防災活動拠点である広域避難場所としての緑の確保、防災機能の充実、整備が必要である。
  - ⑧安全・安心に利用できる公園として防犯面への配慮が必要である。
  - ⑨バリアフリーに配慮した施設整備の推進が必要である。

## ウ 今後の事業化の課題と施設管理に向けた課題

事業化手法等について、次の3つの課題をまとめました。

- ①パークマネジメントの視点に立った多様な主体による管理・運営体制のシステムづくりが必要である。
- ②多様な事業手法導入の推進が求められる。
- ③関連事業の進捗に合わせ、複合化・集約化を視野に入れた段階的な施設整備の推進を図ることが必要である。

### (3) 整備に向けた基本的な考え方と実現するための方向性

等々力緑地の現況と課題を踏まえて、「整備に向けた基本的な考え方」と「整備に向けた基本的な考え方を実現するための5つの方向性」を次のとおりとりまとめました。

#### ア 「整備に向けた基本的な考え方」

「まちづくりと連携し多様な協働・交流による市民が誇れる緑の拠点づくり」を進めます。

#### イ 「整備に向けた基本的な考え方を実現するための5つの方向性」

##### ① 魅力を高め人の輪が広がる等々力緑地

《スポーツや文化・芸術などを通じた川崎市の魅力を高める市民の交流拠点づくり》

##### ② まちづくりとともに歩む等々力緑地

《多摩川等の自然環境や小杉地区のまちづくりと連携し、地域の魅力を高める緑の拠点づくり》

##### ③ いつでも誰でも楽しめる等々力緑地

《市民が憩い・楽しみ、健康増進に寄与する緑地づくり》

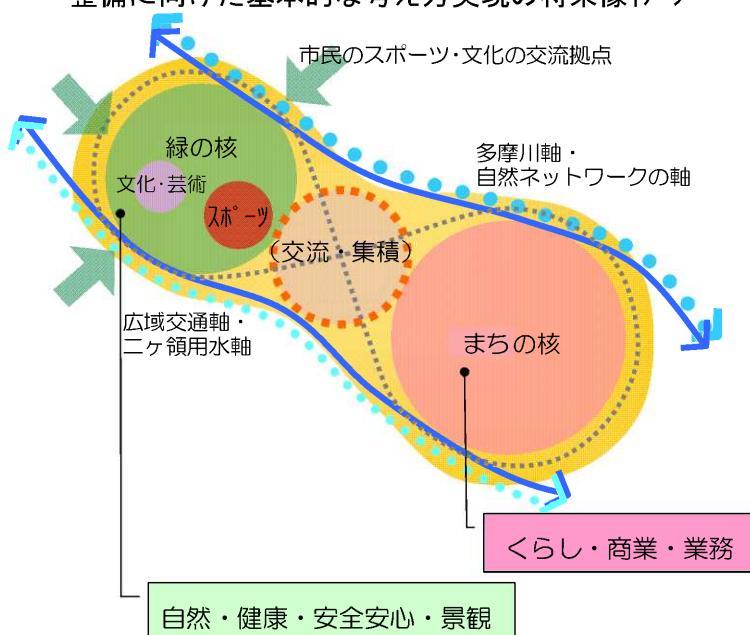
##### ④ 頼りになる安全・安心な等々力緑地

《イベント時や災害時でも安全・安心な緑地づくり》

##### ⑤ みんなで支える等々力緑地

《多様な参画・協働による経営的視点に立った緑地づくり》

#### 整備に向けた基本的な考え方実現の将来像イメージ



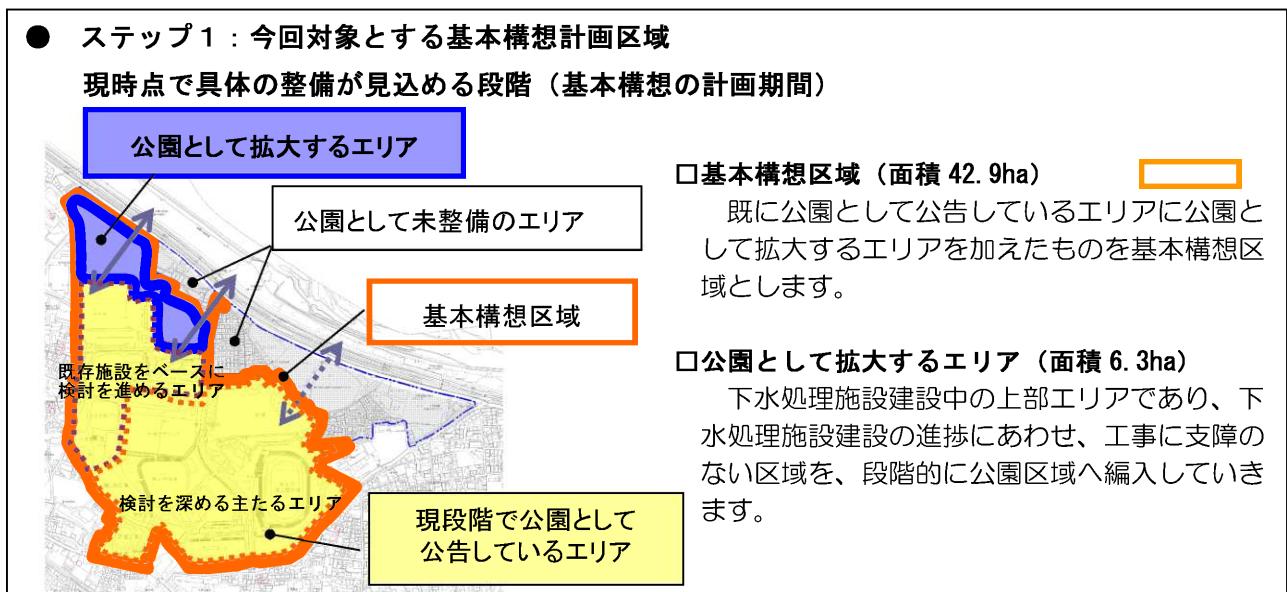
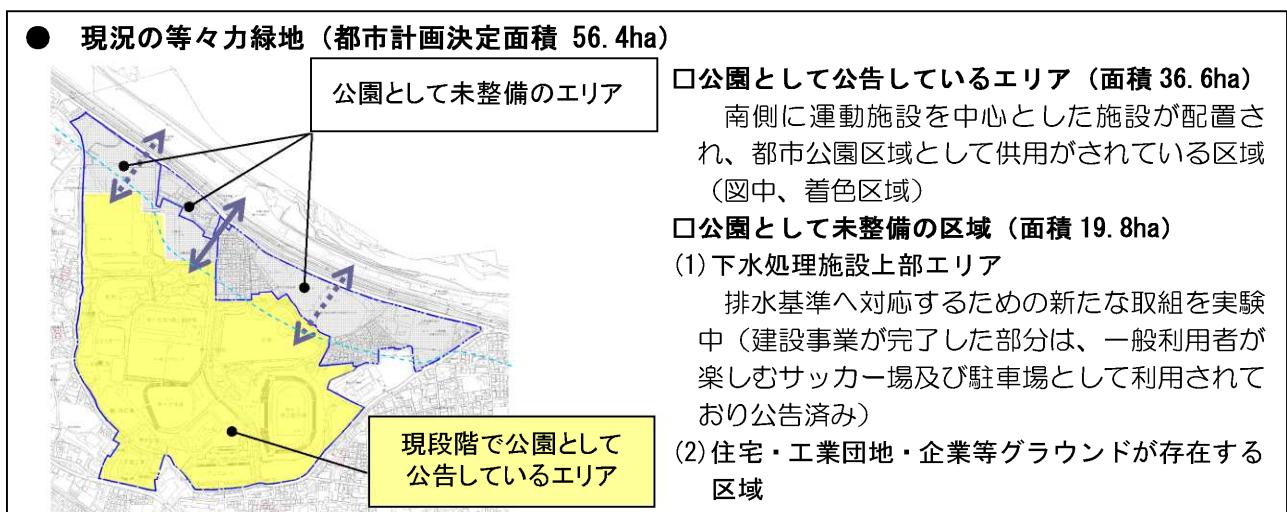
### 3 「基本構想」の概要

平成22年2月に策定した「基本構想」では、「再編整備の進め方」を示し、再編整備に向けた3つの「公園の基本的な考え方」を明らかにするとともに、「公園の基本的な考え方」を実現していくために、等々力緑地へのアクセスと緑地内動線について、検討の方向性をとりまとめました。

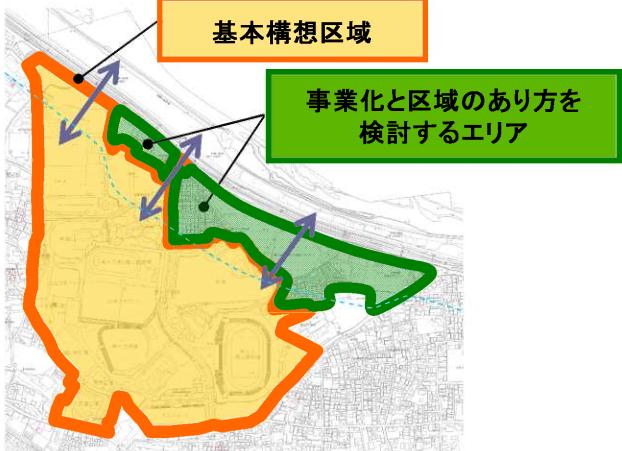
#### (1) 再編整備の進め方

等々力緑地の再編整備に向けては、次のように段階的な整備を進めていきます。

「基本構想」策定にあたっては、将来のステップ2を見据えながら、ステップ1の基本構想区域について整備を進めていきます。



## ● ステップ2：都市計画決定されている等々力緑地



### □事業化と区域のあり方を検討するエリア

現在、住宅・工業団地・企業等のグラウンドが存在している区域についてはさまざまな課題があり、事業化には時間を使うことが見込まれるため、事業化と区域のあり方を検討していきます。

## (2) 公園の基本的な考え方

「整備方針」を踏まえ、「整備方針」に対して寄せられた意見・要望等を考慮し、次のとおり「公園の基本的な考え方」をとりまとめました。

### ア みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園 「緑と水の再整備」

公園の基本機能である「憩いの場」、「自然とのふれあいの場」、「環境教育の場」としての機能をより高めるため、緑と水について再整備を行い、市民が誇れるみどり豊かな公園としていきます。

また、災害時の避難場所の確保や周辺植栽による防災機能の向上、見通しや歩きやすさを考慮した緑の園路など安全・安心の場となる公園をめざします。

### イ 川崎から発信するスポーツ・健康づくりの拠点としての公園 「施設の基本的なあり方」

「硬式野球場」、「陸上競技場」、「プール」などについて、競技者だけでなく「する」「観る」「支える」の観点などによる幅広い層の参加や、競技スポーツをはじめ、健康づくりの拠点として全国へ発信できるような施設をめざします。

検討にあたっては、整備年度からの経過期間、施設の現状、利用実態、ニーズ、市内運動施設の状況などを踏まえていきます。

### ウ 多様な交流を生み出す場となる公園 「連携の推進・交流の拡大」

スポーツや文化・芸術などの拠点として魅力を高めることによりさまざまな交流の場や機会が充実・創出され、個々の交流の拡大や充実が図られ、さらに個々の交流を連携・展開して相互の交流の拡大を図るとともに、周辺まちづくりや地域との連携や情報の発信などにつながる公園をめざします。

### (3) 「公園の基本的な考え方」を実現するために

「公園の基本的な考え方」に基づいた公園づくりを進めるにあたり、等々力緑地へのアクセスと緑地内の歩行者動線・自動車等動線の方向性を次のとおりとりまとめました。

#### ア 等々力緑地へのアクセスの方向

環境に配慮した公園整備をめざし、徒歩や自転車、公共交通機関での緑地へのアクセスの向上に向けて、周辺のまちづくりと連携した整備等を検討します。

##### (ア) 公共交通機関の利用を基本とした検討

国道409号に接する正面広場に、臨時バスに対応できるスペースを確保し、利便性を向上させる検討を行います。

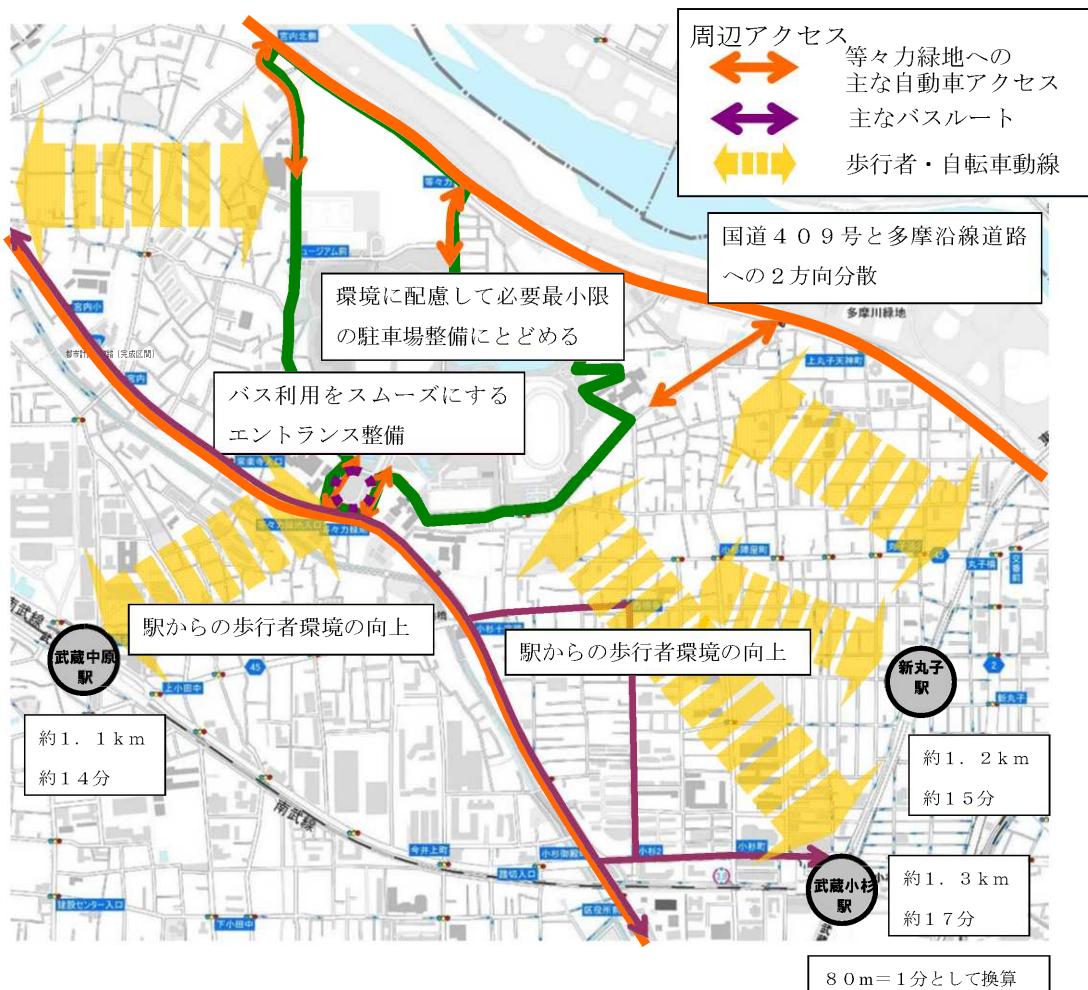
駐車場は、公共交通機関の利用を基本として、集客の増などを考慮しながら必要数を整備するとともに、徒歩やバス・自転車利用等をより利用しやすくするなどの検討をします。

##### (イ) 歩きやすく魅力あるアクセスの検討

周辺まちづくりと連携した魅力やにぎわいのある沿道や、初めてきた人でも駅やバス停までの経路が分かりやすい誘導案内を含めた歩行者環境の向上などを検討します。

また、イベント時のピーク対応についても検討を進めます。

等々力緑地周辺のアクセス確保に向けたイメージ図



## イ 緑地内歩行者動線の方向

公共交通機関の利用を基本として考え、再編整備により施設規模が増加することを想定し、緑地内の安全で快適な歩行者動線を設定します。

### (ア) メインアプローチ軸 ⇒「主要施設へのアプローチの改善」

国道409号からのアクセスポイントと集客数の多い施設をつなぐ動線をメインアプローチとし、各施設の再配置を検討する中で周辺からの人の流れなどを整理し、サブアプローチについても検討を行います。

### (イ) エントランス ⇒「各エントランスの検討」

メインアプローチ軸の整理をしながら公園の顔であるメインエントランスとなる正面広場の検討を行うとともに、施設配置や周辺からの歩行者の流れを考慮して安全に出入りできるサブエントランスを検討します。

### (ウ) 施設のネットワーク軸 ⇒「各施設をつなぐ動線の整理」

各施設をつなぐ動線を整理し、施設間の誘導・案内等につながるルートを検討します。

### (エ) みどりの回遊園路 ⇒「みどりの回遊園路の検討」

等々力緑地内を巡る散策路等をつなげ、回遊ルートを検討します。

### (オ) 多摩川へのアプローチ軸 ⇒「多摩川との一体利用」

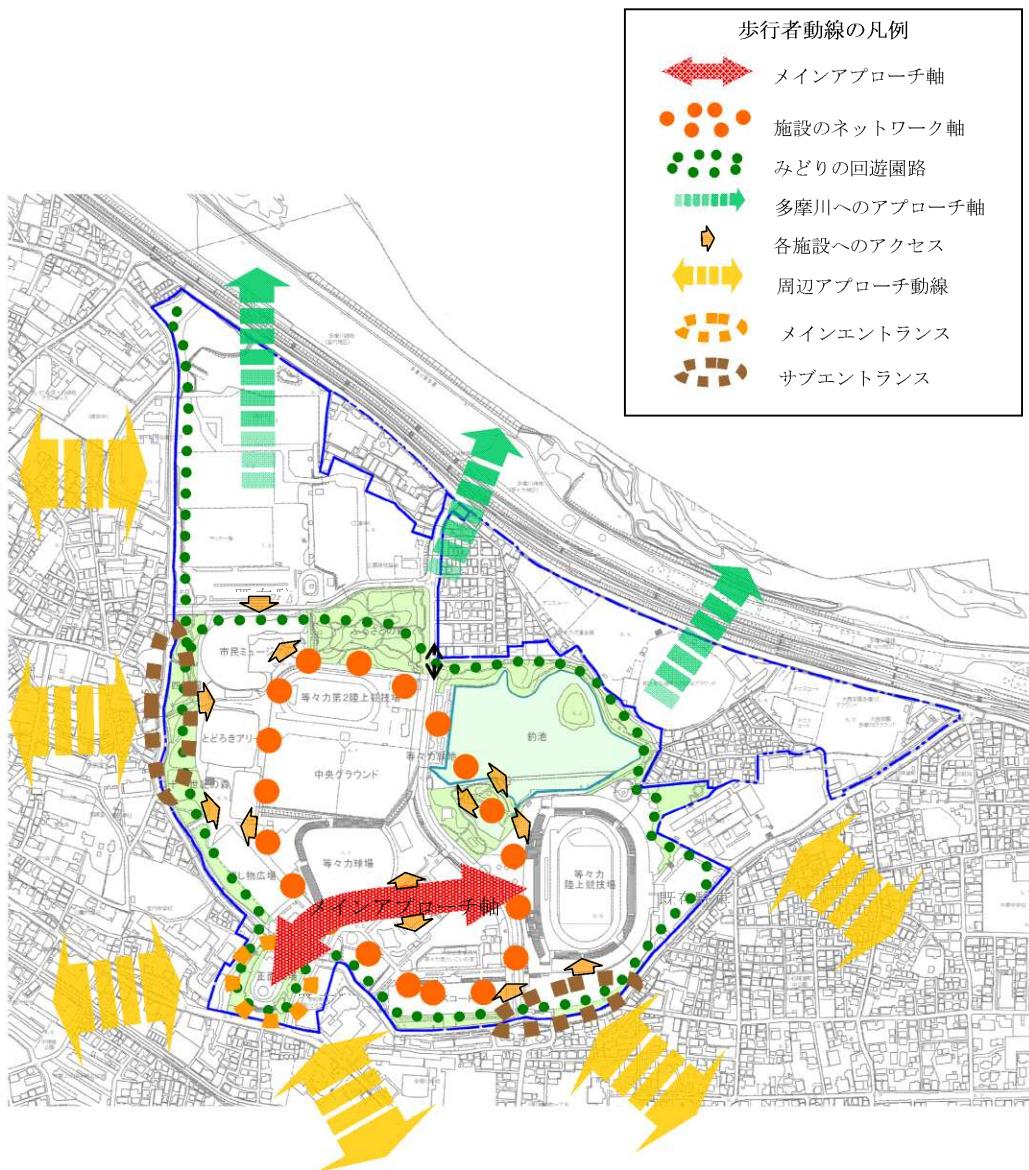
等々力緑地内から多摩川の自然環境へ向かう動線を多摩川へのアプローチ軸として検討します。

### (カ) イベント時の動線 ⇒「イベント時の円滑な移動」

陸上競技場等での大規模イベントの終了時は短時間に集中して人の流れが各方向へと動いていくことから、歩行者の目的方向に対応した動線を設定し、それに対応する緑地内の歩道形態やエントランスの改善につなげます。

また、自転車の利用も多いことから駐輪スペースなどを設定してイベント時の対応を考えます。

緑地内歩行者動線のイメージ図



## ウ 緑地内自動車等動線の方向

再編整備により施設規模が増加することを想定し、周辺道路への影響などを考慮した自動車動線を設定します。

### (7) 等々力緑地内への自動車動線の検討

国道409号と多摩沿線道路を等々力緑地への自動車の主動線として、車の流れを振り分けるよう駐車場や緑地内道路を検討します。

また、緑地内の歩車分離など現状の自動車動線の問題点を踏まえ、主動線を市民ミュージアム北側の道路とするなどの検討を行います。

### (8) 駐車場配置の検討

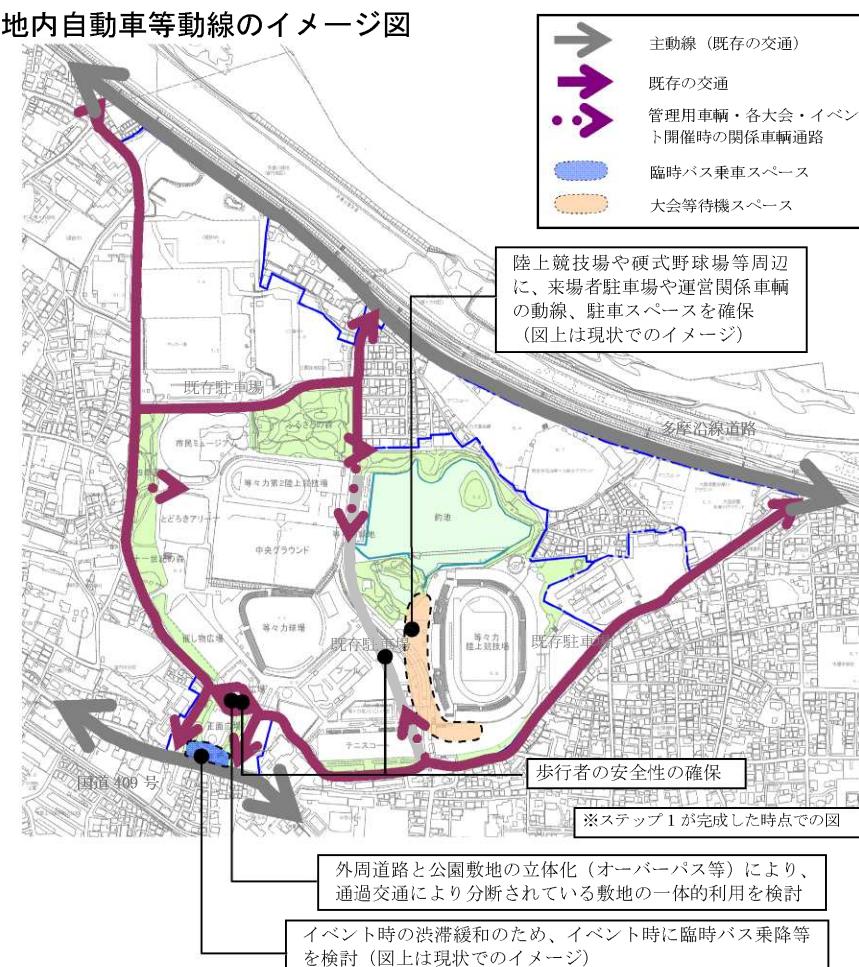
公共交通機関利用を前提に、緑地全体の集客の増加などを考慮しつつ、周辺道路への影響を配慮しながら、集約・分散配置の観点も含めて駐車場（臨時駐車場）を配置します。

また、運営にかかる関係車両などの駐車スペースの確保や緊急車両等の動線・作業等のスペースの確保などを合わせて検討します。

### (9) 歩行者動線と車両動線の整理

安全な歩行者動線の確保を前提に、通常時、管理時、大会運営時の車両の流れを整理し、歩行者の動線と交差しないように、立体化及び時間や利用形態での規制など緑地内の車両の動線を検討します。

緑地内自動車等動線のイメージ図

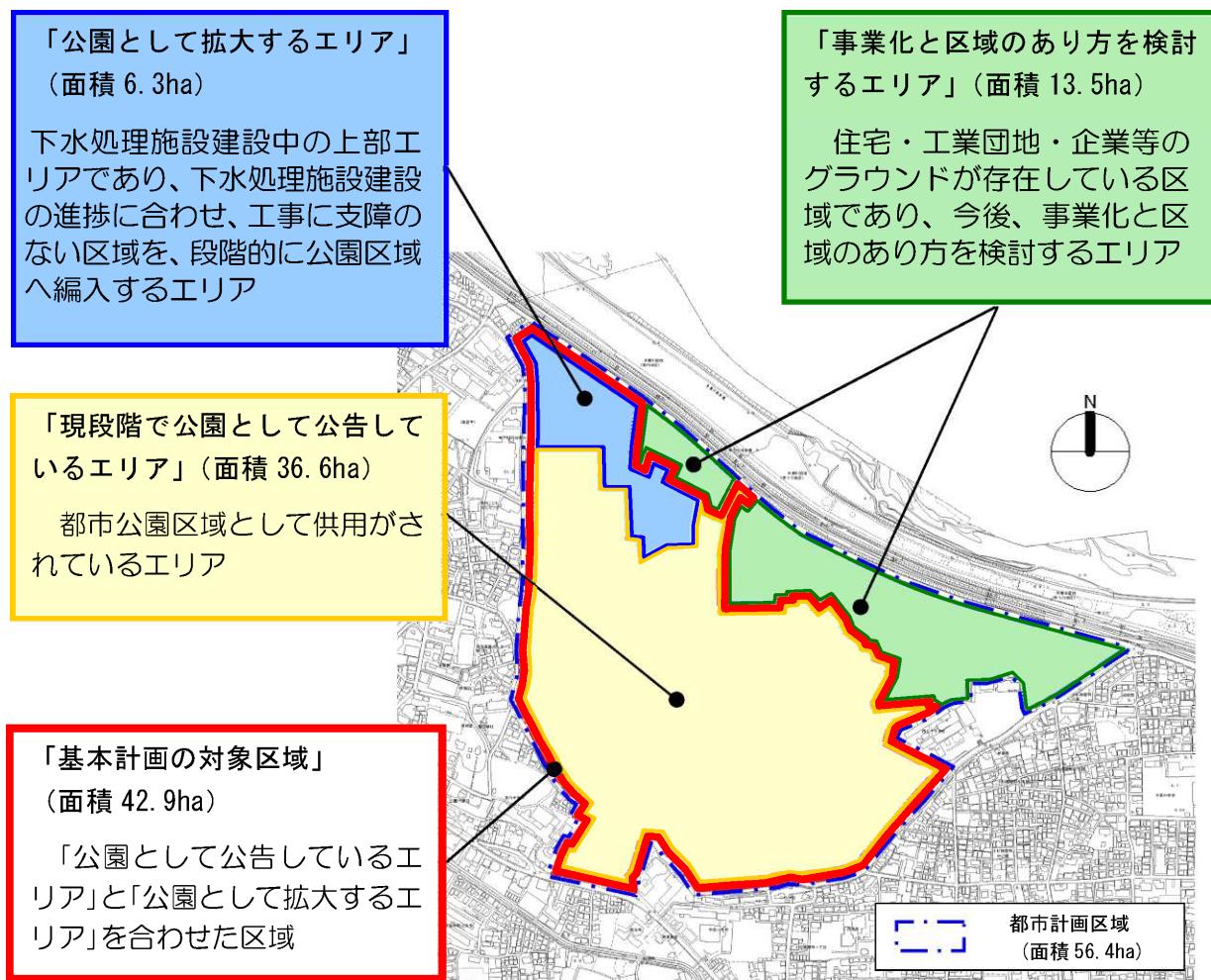


## 4 「基本計画」の概要

平成22年10月に策定した「基本計画」では、対象区域を定め、「基本構想」の「公園の基本的な考え方」に沿って、「みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園」、「川崎から発信するスポーツ・健康づくりの拠点としての公園」、「多様な交流を生み出す場となる公園」の3つの視点から、等々力緑地の「再編整備の方向性」をとりまとめました。

### (1) 対象区域

「基本計画」では、「現段階で公園として公告しているエリア」と下水処理施設建設中の「公園として拡大するエリア」が対象区域です。



## (2) 再編整備の方向性

### ア 「みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園」づくり

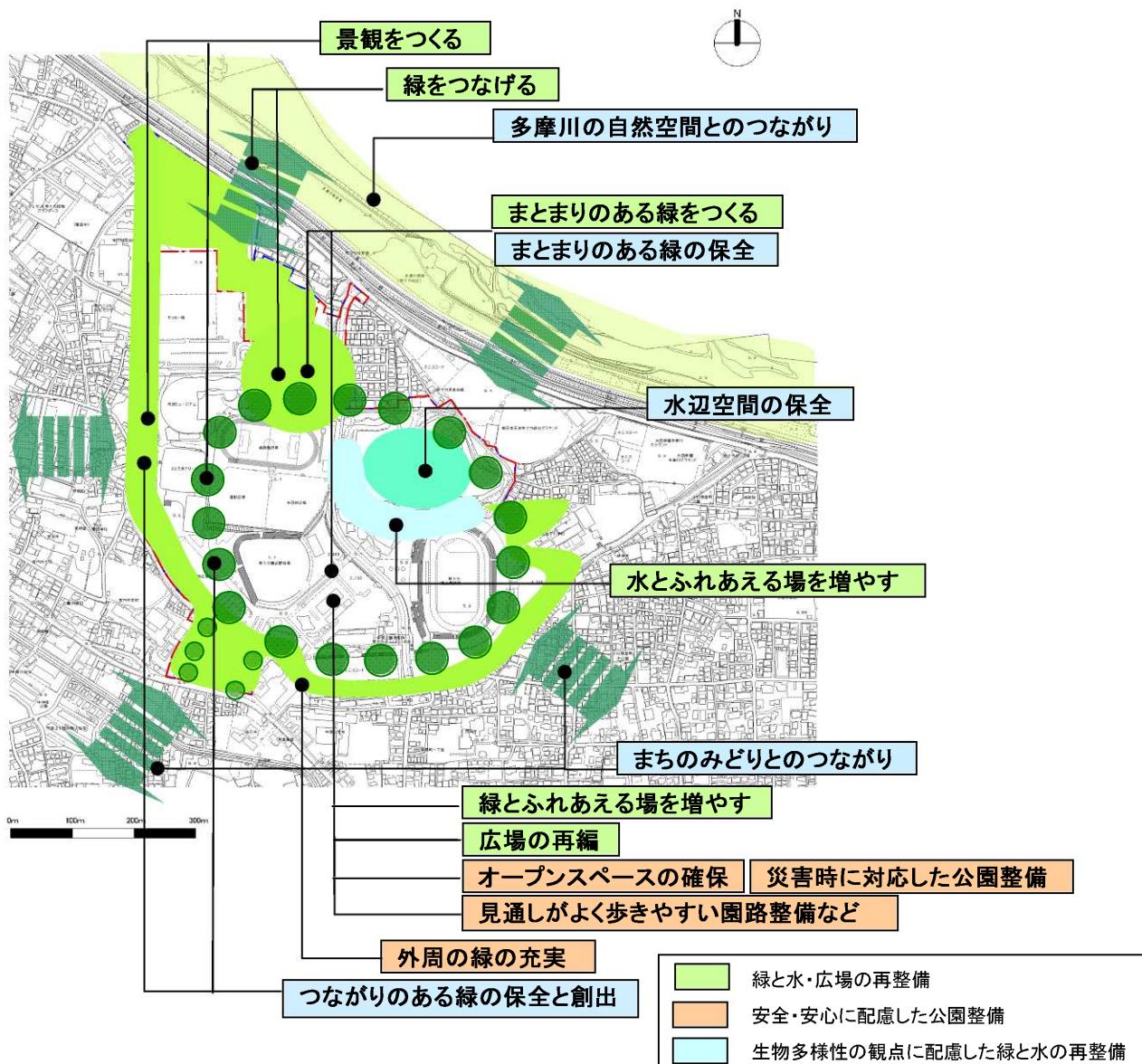
「緑と水・広場」、「安全・安心」、「生物多様性」の3つの視点からみどり豊かな安全・安心の場となる公園づくりをめざします。

(ア) 多摩川を含めた緑のネットワークの拠点として、市民が誇れるみどり豊かな公園をめざし、緑と水について再整備を進めます。

(イ) 日常の安全にも配慮した安全・安心の場となる公園をめざし、災害時の避難場所の確保や、周辺植栽による防災機能の向上、見通しや歩きやすさを考慮した緑の園路の再整備などを進めます。

(ウ) 緑や水のある空間を生物の生息空間として捉え、生物多様性の観点に配慮した緑と水の再整備を進めます。

「みどり豊かなやすらぎと安全・安心の場となる公園」のイメージ図



## イ 「川崎から発信するスポーツ・健康づくりの拠点としての公園」づくり

等々力緑地の特色となっているスポーツの拠点として、硬式野球場や陸上競技場などの大規模施設をはじめ、日常の健康づくりの場としての広場、子どもの遊び場、釣池などの施設を整備し、スポーツ・健康づくりの拠点としての公園づくりをめざします。

### (ア) 主な施設の整備の方向性について

主な施設	整備の方向性
硬式野球場	<ul style="list-style-type: none"><li>おおむね現位置で、高校野球の予選や社会人大会の開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行える整備を進めます。</li><li>施設規模については、高校野球の予選や社会人大会の開催が可能な施設を前提として、収容人員1万人程度をめざします。</li></ul>
陸上競技場	<ul style="list-style-type: none"><li>基本的に現位置で、1種公認陸上競技場として、陸上の大会やJリーグの試合などの競技や観戦が、円滑かつ安全に行える整備・改築を行います。</li><li>競技やイベントが開催されていないときは市民が利活用できる施設をめざします。</li><li>施設規模については、Jリーグの試合などを円滑に運営できる施設を前提として、収容人員は3万人程度を基本に、3万5千人に配慮して検討を進めます。</li></ul>
補助競技場	<ul style="list-style-type: none"><li>陸上競技は陸上競技場での開催を基本とし、陸上競技場の利用調整を見据え、補助競技場で一定の大会ができるよう、機能向上を図ります。</li></ul>
プール	<ul style="list-style-type: none"><li>児童の利用を主として、じゃぶじゃぶ池など通年利用の親水施設への変更も含めて検討していきます。</li></ul>
正面広場	<ul style="list-style-type: none"><li>公園のメインエントランスとして、人や車の流れや緑地内の各施設へのアクセスを考慮した整備をめざします。</li></ul>
釣池	<ul style="list-style-type: none"><li>水質の改善を図ります。</li><li>レクリエーションとしての釣りを楽しむ機能とともに、自然学習や親水空間として来園者への開放をめざします。</li></ul>
子どもの遊び場	<ul style="list-style-type: none"><li>子どもの育成やコミュニケーションの場となる施設として、安全・安心で、創造力の発達、心や体の成長につながる整備に向けた検討を進めます。</li><li>多様な世代の利用が可能な施設の整備に向けて検討します。</li></ul>
広場・オープンスペース	<ul style="list-style-type: none"><li>人が集い、さまざまな利用ができる施設として、規模や舗装などを考慮した整備をめざします。</li></ul>
駐車場	<ul style="list-style-type: none"><li>公共交通機関の利用を原則とし、周辺交通に負担がかからないよう、適切な位置・規模・必要台数の確保をめざします。</li></ul>

## (1) 施設整備にあたっての留意点

次の点に留意して施設整備を進めます。

### a 関係者との緊密な調整

特に、硬式野球場、陸上競技場、補助競技場については、関係者と緊密な調整を図りながら整備を進めます。

### b 施設の閉鎖期間

継続的な競技開催という視点に立ち、施設整備に要する施設の閉鎖期間を可能な限り短縮する方向で整備を進めます。

### c 施設の多目的利用や集約化・複合化・立体化

限られた敷地を有効活用し魅力を高め利用の拡大を図るため、施設の多目的利用や集約化・複合化・立体化などをめざします。

### d 施設のネットワーク化

利用者の利便性向上のため、各施設の機能を補完し緑地全体で施設のネットワーク化を図ります。

また、施設間のネットワーク形成に向け、各施設の入口と緑地内動線を考慮したアプローチなどの整備を進めます。

### e 民間活力の導入

整備にあたっては、設計・施工一括発注など民間活力の導入を検討します。また、維持管理・運営についても民間活力の導入を検討します。

### f 防災面への配慮

平常時と発災時の両面に配慮し、避難スペースの確保とともに、貯水施設の複合化など災害時の機能を考慮します。

### g 周辺住民等への配慮

施設からの音や夜間の照明など、周辺住民への影響に配慮した整備を進めます。

### h バリアフリーへの対応

ユニバーサルデザインの考え方に基づき、バリアフリーなど誰もが利用しやすい施設とします。

### i 地球環境への配慮

太陽光や風力などの自然エネルギーの活用、雨水の利用など地球環境に配慮した整備を進めます。

## 大規模施設の配置イメージ図



### ウ 「多様な交流を生み出す場となる公園」づくり

スポーツ、文化などの活動を通じて利用者やさまざまな主体の多様な交流を生み出す場となる公園づくりを進め、あわせて、地域の団体等と連携し、地域の魅力向上を図ります。

また、多様な交流を生み出す場となる公園づくりをめざし、次に掲げる取組を進めます。

#### (ア) 交流の機会の充実

再編整備を通じて、さまざまな主体が活動できる場を創出し、交流の機会の充実を図ります。

#### (イ) 地域等との連携

商店街や企業、医療施設や学校、周辺まちづくり、緑地周辺でのさまざまな活動などと連携し、緑地全体や周辺地域の魅力向上をめざします。

#### (ウ) アクセシビリティの向上

多様な交流を生み出すために、緑地までのアクセスや緑地内の歩行者動線などの改善を図ります。